Japanese association of educational psychology

学　習　E-6

登場人物像はどのように構成されるか
―文章中の描写との関連から―

佐藤礼子
（お茶の水女子大学人間文化研究科）

《問題と目的》読書量の多い者は物語や小説を読んで構成した登場人物像について多くの記述を行なうことからより詳しい登場人物像を構成すると示唆されている（村田,1996；佐藤,1997）。ではそのような登場人物像はどのように構成されるのだろうか。本研究では読書量の多い者の登場人物像の構成の仕方の特徴を検討することを目的とする。読み手の構成する登場人物像は多面的なものであるが，登場人物像の自由記述の量的分析では，読書量の多い者は外見の描写のあまりない文章においては外見について多く記述し，外見の描写が多い文章においては外見ではなく性格の記述が多いことから，文章で明示的になっていない側面について詳しく構成するという特徴が示唆されている（佐藤,1997）。そこで本研究では，登場人物の外見の描写の多寡による登場人物像の違いについて，外見の特徴に焦点を当て質的分析を行ない検討する。

《方法》実験計画：2（材料文における登場人物の外見の描写：多／少）×2（小説接触度：高／低）の2要因計画。　被験者：女子大学生104名。小説接触度により上位28名を高接触群としそのうち9名を外見の描写の少ない文章，19名を外見の描写の多い文章に割り当てて，下位41名を低接触群としそのうち14名を外見の描写の少ない文章，27名を外見の描写の多い文章に割り当てた。　材料文：椎名篤子『親になるほど難しいことはない』より一話分12ページを外見の描写の少ない文章（少描写文章）とし，それに外見の描写を加えて描写の多い文章（多描写文章）とした。　課題：物語の中心的人物について外見と性格それぞれについて出来るだけ詳しい自由記述。　手続き：材料を各自の速度で読んでもらい回収した後上述の課題を実施した。

《結果と考察》ここでは外見の記述のみを取り上げる。記述された項目数を数え，それを更に11のカテゴリーに分類した。小説読書量と材料文との相互作用を検討するため，材料ごとに分析を行なった。度数の分析には直接確率計算法を用いた（両側検定）。　(1)分類されたカテゴリーの数の分析：（表1）少描写文章においては小説高接触群の方がカテゴリー数が有意に多かった（$t(21)=2.10, p<.05$）が，多描写文章においては有意差は見られなかった。従って小説読書量の多い者は文章で描写があまりなされていない場合にさまざまな特徴を多面的に構成することが示唆された。
(2)文章から推論可能な特徴について：（表2）材料ごとに文章では書かれていないが推論される特徴を記述していた人数の割合を分析したところ，小説接触度による有意な片寄りは見られなかった。文章から推論可能な特徴は小説読書量にかかわらず構成されることが示唆された。　(3)文章からの推論以外の特徴記述について：多描写文章において，任意に想像することの出来る容姿や漠然とした雰囲気のような特徴について記述している者は小説高接触群で5％，低接触群で37％であり，この人数の片寄りは有意であった（$p=.013$）。すなわち，小説読書量の多い者は，登場人物の外見についてある程度材料文によって描写されてしまうと，それ以上は外見の特徴を想像しにくくなる可能性が考えられる。

以上の分析から，小説読書量の多い者はテキストに応じてそこに明示的に書かれていない特徴を自ら多面的に補って登場人物像を構成していくという特徴があることが示唆され，佐藤（1997）の量的分析の結果が追認された。

表1　分類されたカテゴリーの数の平均（SD）

	少描写文章	多描写文章
小説高接触群	4.4(1.2)	3.8(1.6)
小説低接触群	3.4(1.2)	4.0(1.4)

注．（　）内は標準偏差．

表2　推論可能な特徴を記述した人数（％）

	少描写文章	多描写文章
小説高接触群	8(89)	12(58)
小説低接触群	11(58)	20(37)

注．（　）内は％．

NII-Electronic Library Service